

地域密着型インターンシップ 最終報告書

特定非営利活動法人 素材広場

8期生 ニックネーム： まな

研修目的

大学のゼミ活動で顔晴ろう福島プロジェクトをしています。福島県の風評被害に対して静岡県からでも出来る事がないかと考え活動しています。そこで私は福島県の現状を自分の目で見て聞いて確認し、福島県のために何が出来るか現地で考えるため来ました。具体的に風評被害で苦しむ農家さんや福島県のみなさんの力になりたいと静岡県での物品販売で福島県産のものを長期的に販売、また時期に合わせた商品開発や観光客が減少しているので、観光ルートの開発があります。

学校の課題として

1. 福島県の現状を自分の目で見て感じる
2. 9月4日の静岡の物品販売の食材探し・仕入れ
3. ツアーの作成

研修作業内容

1. 東山温泉盆踊 手伝い
2. 山際食彩工房さんでこづゆのサンプル作り
3. 大豆畑の雑草抜き
4. 新潟古町 物品販売
5. 静岡での物品販売のリストチェック・発注
6. モニターツアーの食材リスト作り
7. いわき市視察
8. ツアー作成
9. 体験型ツアー参加、作成
10. 静岡県での販売、準備

1. 東山盆踊り 手伝い



東山温泉協会で東山温泉盆踊大会の手伝いをやらせていただきました。実際にやったこととして、ふるまい酒を配りやお菓子配りやジュースとビール配りやごみ拾い、片付けです。3日目からの参加だったので初日は何をしたら良いのか分からずあたふたしてしまいました。盆踊りも少し踊りました。

4日目も同じ作業だったので4日目は3日目よりもスムーズにやる事ができました。

東山温泉には、原発の避難区域である大熊町の方々が沢山避難してきていました。

4日目には大熊町の盆踊りがあり大熊町の方々が元気に踊っているのを実際に見る事が出来ました。

子供からお年寄りまで様々な方がいました。

もっと元気がなかったり暗かったりすると思っていたので、びっくりしたのもそうですが、嬉しく思いました。

何年かかってもまた大熊町に帰ろうという気持ちが凄く伝わってきました。

こういった避難している方々のためにも、静岡から応援しているということ、静岡の元気を福島県の方々に伝えていきたいなと思いました。

2. こづゆのサンプル作り

山際食彩工房でこづゆのサンプル作りをやらせていただきました。

山際さんのことは静岡の横田さんの講義でカップラーを紹介していただいたので知っていました。

こづゆのサンプル作りでは里芋や人参や銀杏や糸こんにゃくや筍や椎茸や木耳や豆麩、帆立のグラムを計り、5種類を透明の真空パックと紫外線防止の銀の真空パックの2種類の5パッ

クズつの10パックを作りました。

郷土料理を真空パックにすることによりなかなか買うことの出来ない人も買い置きすることが出来るなと思いました。

そういうことをもっと広めていけたら会津若松で実際に来て食べてみたいという人もでくるのではないかと思います。

3. 大豆畑の雑草抜き



大豆畑の雑草抜きでは、なかなか体験する事のない農作業でとまどいました。

有機栽培なので雑草もよく育っており抜くのも一苦勞でした。

凄く広い畑で、ゴールがずっと先にあるようなかんじがしました。

雑草抜きの後にバーベキューをしたのですが、避難してきた農家さんのお話が直接うかがえ、地元の農家さんや山際シェフにもお話をうかがうことができました。

避難してきた農家さんは大変さや農家を続けたいということ、また元の場所に戻って農業をしたいとおっしゃっていました。

地元の方々は強い絆があるなと思いました。

また地元も方々だけでなく、周りの地域の方々の協力姿勢からも支えあっているなと思いました。

私たちが静岡県からできることとして、福島県産のものが全て危ないということではなく、安全なものもあるという正しい知識を広めていくことだと思いました。

また、9月4日だけでなく静岡県でもっとたくさん物品販売をしていきたいなと思いました。

4. 新潟古町 物品販売



物品販売では、震災から 5 ヶ月もたっていることもあり立ち止まって下さる方が少なかったように感じました。

人通りの少ない中応援して買ったださる方もたくさんいました。

しかし、なかには立ち止まってくれても福島県産と聞くと福島県産ねえ…と行ってしまう方もいらっしゃいました。

福島県産というだけでまとめられてしまうのは悲しいことだなと思いました。

これは、福島県ならではの問題だと思いました。

この問題については、私たちのような外からきた人が伝えて行く必要があると思いました。

新潟での物品販売では販売の難しさを知ることができ次の販売では安全性を伝えていき、正しい知識を広めていきたいです。

まず、静岡での物販の時にポップとチラシを作り安全性を伝えていこうと思います。

そして、静岡県で福島県の安全性を分かってもらい、福島県産だから…という偏見みたいなものを取り除いていきたいです。

5. 静岡での物品販売のリストチェック・仕入れ

これも私たちの課題の中に含まれているのですが、静岡でも売れそうなものを熱いと思うので飲み物を中心に仕入れセットにして売り、それに私たちが実際に見て、聞いて感じた事を書いた紙のようなものを添えて、付加価値をつけて販売します。これに関しては、静岡に帰っても続けていきます。

仕入れたもの

・ソフトクリーミィヨーグルト プレーン	150 本
・ソフトクリーミィヨーグルト いちご	150 本
・さるなしドリンク	120 本
・バンダイポップ	216 本
・リンゴ酢	48 本
・会津のべこ乳の食べるヨーグルト	72 個
・若桃の甘露煮	72 袋
・川俣シャモの地鶏カレー	35 箱
・川俣シャモのさわやかトマトカレー	35 箱

セットとして

・ソフトクリーミィヨーグルトプレーン 1 本×いちご 1 本	150 セット
・さるなしドリンク 1 本×バンダイポップ 1 本	120 セット
・バンダイポップ 2 本×りんご酢 1 本	48 セット
・会津のべこ乳の食べるヨーグルト 1 個×若桃の甘露煮	72 セット
・川俣シャモの地鶏カレー 1 箱×川俣シャモのさわやかトマトカレー	35 セット

6. モニターツアーの食材リスト作り・チラシ折り

17 市町村に電話をかけて聞いてくれたものを私はエクセルでリストにしました。静岡県では聞いた事のない食材が沢山あり、福島県の食材を沢山知ることができました。後は、出来あがったチラシを受け取りやすいサイズの三つ折りにしました。

7. いわき市視察



学校の課題でもあるように自分たちの目で感じたいということで、いわき市の視察に連れて行っていただきました。

会津若松市にいと地震の影響は思った以上にはないのですが、いわき市の方に近づくにつれがれきは片付いていましたが、木が倒れていたり瓦が落ちていたりとどんどん酷くなっていました。

いわき市ではアクアマリンふくしまと四倉の道の駅周辺に行きました。

アクアマリンふくしまは、静岡県ニュースでもよく見ていました。

ニュースで見たような光景はなく綺麗な水族館でした。

しかし、周りにはまだアスファルトの残骸が山積みになっているところがあったり、船が山積みになっているところがありました。

魚の数も震災前と後ではだいぶ変わってしまったようです。

四倉の道の駅の周辺では地震の被害より津波の被害の方が大きく、家の一階はなくなっており骨組みだけの状態でした。

骨組みも不安定な状態で立っているのも不思議でした。

しかしそんな中でも営業しているお店があり、凄いなと思い私が元気をもらいました。

より一層静岡県からでも私たちにできることを考える日になりました。

9月4日の物品販売では、いわき市で見たことも伝えていきたいと思います。

どうしたらまた震災直後のように福島県の応援をしてもらえるのか、福島県の安全性を知ってもらえるのかをゼミ活動の中でゼミ生に伝え話し合い、こういった現状も含め正しい情報を伝えて広めていきたいです。

8. ツアー作成

スケジュール

1 日目

14 : 00 会津若松駅
14 : 30 手作り体験広場 番匠
15 : 40 会津武家屋敷
16 : 50 チェックイン

2 日目

09 : 40 出発
09 : 50 会津若松駅
10 : 35 湯野上温泉駅
11 : 10 大内宿
12 : 40 湯野上温泉駅
13 : 42 会津若松駅
14 : 00 がぶりガーデン 星果樹園
15 : 15 がぶりガーデン 本舗
16 : 30 ホテル着

3 日目

09 : 30 出発
09 : 45 鶴ヶ城
11 : 00 飯盛山
各自昼食
13 : 00 会津若松駅

大学生をターゲットとしたプランであり、ゼミ旅行などの団体にむけたプランです。
行きや帰りの移動は新幹線を考えており、市内移動は会津若松のバスを手配しようと思
います。

会津若松市で食べて泊って支援する観光を考えています。

観光ルートの作成については、静岡でもまだ練っていく必要があると思います。

観光がもたらす経済効果は宿だけではなく、地元の農家さんやその地域のお店、またクリ
ーニング屋さんなど観光ではないようなところにまで広がっていきます。

観光を元気にすることができれば福島を元気にする事が出来ると考えています。

会津若松だけでなく福島県の他の地域の観光ルートも考えていきたいと思っています。

観光を復活させるためにも福島県の安全性を私たちのような他県から来た人が伝えていく必要があると思います。

9. 体験型ツアー参加、作成



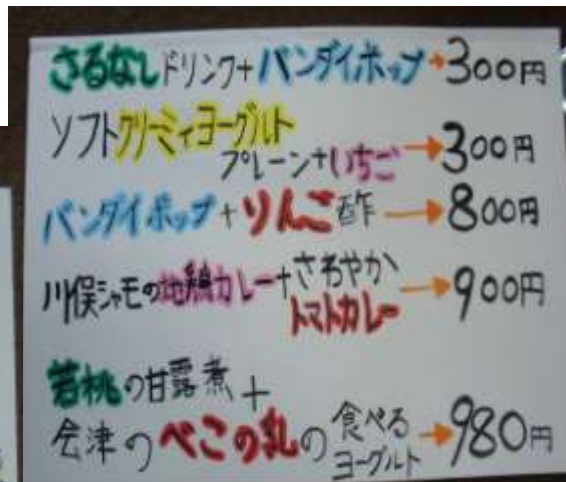
8月30日に体験型ツアーに参加しました。そば打ち体験や川遊びや魚を手でつかまえたり、とった魚を自分たちで捌いて焼いて食べたりと様々な体験をしました。そば打ち体験では、伝統を守り季節のものを味わうことの大変さを知りました。伝統を守りながら伝えていくことの難しさを学びました。そして伝統を守る熱意を感じました。魚を自分たちで捌いて食べるということでは命の大切さ、ありがたみを感じました。実際に自分で体験することによりわかること



感じるものが沢山あるなと思いました。私たちもこういう体験型のツアーを作ったらよりたくさんの人をよぶことができるのではないかと思います。

31日には、体験型ツアーを作りました。福島県の農家産のところに行って農業を体験して食べるということを考えました。実際にやるとなると難しいかと思いますが、農家さんのお話も直接聞くことができ風評被害に対する考え方も変わるのではないかと思います。なのでこのツアーを実現したいなと思います。

10. 静岡県での販売、準備



9月4日に静岡県富士市で販売を行いました。9月2日と3日には販売のための準備をしました。福島県産のものが安全だということを伝えるためにPOPと看板、チラシを作成しました。チラシは商品の中に入れるものと配るものを作りました。商品の中に入れるものには、商品情報やレシピを書いて入れました。配るものには、全商品の生産場所と問い合わせ先を書きとり取り寄せもできるようにしました。地図をのせわかりやすくしました。また、私が実際に行って感じたことも書きました。

震災から半年たっていること、そして次から次にでてくる放射能の問題、雨ということもあり、立ち止まってくれる人は少なかったです。新潟での販売の時と同じように、立ち止まってくれても福島県産ということがわかると帰ってしまう方もいました。中には、放射能が入っているかもしれないからそんなものは売らな。と言う方もいて悲しかったというより、すごく腹が立ちました。でも、ほとんどの方がそういう考え方でただ言わないだけなのかなとも思いました。震災直後はあんなにたくさんの人が支援、支援と言っていたのに今ではめったに聞かなくなりました。あんなにあった募金箱も今ではあまり見なく

くもあり、立ち止まってくれる人は少なかったです。新潟での販売の時と同じように、立ち止まってくれても福島県産ということがわかると帰ってしまう方もいました。中には、放射能が入っているかもしれないからそんなものは売らな。と言う方もいて悲しかったというより、すごく腹が立ちました。でも、ほとんどの方がそういう考え方でただ言わないだけなのかなとも思いました。震災直後はあんなにたくさんの人が支援、支援と言っていたのに今ではめったに聞かなくなりました。あんなにあった募金箱も今ではあまり見なく

なりました。だんだん薄れていく中でも放射能の問題だけは薄れていかないなと思いました。そんな中、私たちにできることは正しい知識を発信していくことと、福島県の皆さんがその中でも頑張っていること伝えていくことだとより強く思いました。

気づき・感想

私は福島県では現状を自分の目で見ること、今までどこか遠いところだった話を自分のものに出来た気がします。

静岡県にいと薄れていってしまう震災の記憶も福島県の地元の方とコミュニケーションをとることで何をするべきなのかわかりました。

福島県の現状と安全性を正しく伝えていくことが一番必要だと感じました。

観光にしても農業にしても物品販売にしても安全であるという正しい情報が発信されていかなければ福島県が元気になるのは難しいなと感じました。

静岡県では震災から半年たっていること、そして次から次にでてくる放射能の問題に立ち向かっていくことは、ますます難しいなと思いました。

これからの活動として私たちにできることは正しい知識を発信していくことと、福島県の皆さんがその中でも頑張っていること伝えていくこと、また販売をすること、ツアーを完成させみんなで行くことをしていきたいです。